



## 具体的な教育内容の改善・充実 ～何を学ぶか～

### ★内容の改善・充実

児童生徒の発達の段階を踏まえて、学習したことを実生活や実社会に生かすとともに運動の習慣化につなげ、豊かなスポーツライフを継続することができるよう、指導内容の体系化を図ることが重視されています。

#### ○運動やスポーツとの多様な関わり方を重視した学習の充実

体力や技能の程度、性別や障害の有無等にかかわらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有することができるよう指導内容の充実を図ることが求められています。中学校においても、原則として、男女共習で学習を行うことが求められています。

#### ○体育分野（運動領域）と保健分野（保健領域）との相互の関連を図る指導の充実

健康と運動やスポーツとの関わりを重視した指導の充実が求められています。また、保健分野（保健領域）において、小学校では不安や悩みへの対処やけがの手当、中学校ではストレス対処や心肺蘇生法等が技能として新たに明示されています。

📖 解説 小学校体育編 p.14～ 中学校保健体育編 p.14～

## 主体的・対話的で深い学び ～どのように学ぶか～

必要な知識及び技能の習得を図りながら、児童生徒の思考を深めるために発言や意見交換を促したり、気付いていない視点を提示したりすることなどで「深い学び」の実現が期待できます。

### 【課題発見・解決の学びのプロセス例】



📖 解説 小学校体育編 p.9、p.23～ 中学校保健体育編 p.13、p.29～